

科目名		授業形態	担当教員名	
言語発達障害Ⅲ (発達段階の評価と指導：前言語期・単語獲得期)		講義	石井 喜代香	
時間数(単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>小児のことばの障害は、大人と子ども両者のコミュニケーションが関与することから、両者が評価の対象である。そこで、語用論的立場のインリアルを紹介し、まず、大人のかかわりの重要性と基本的な姿勢について講義する。次に、評価や指導・支援に関するコミュニケーションの発達段階とやりとりの共有(フォーマット)について解説する。これを踏まえ発達に即した指導を中心に、加えて障害特性を交え、前言語期から語彙獲得期の段階について、評価観点や具体的指導・援助について講義する。</p>				
授業の到達目標				
<p>語用論の考え方を理解し、インリアルの特徴を捉える。大人と子どもの相互の関係でコミュニケーションはダイナミックに変化するものであることを理解する。特に、大人の役割の重要性とかかわりの具体的方法を知る。小児科学、発達、言語発達障害等の知識がベースとなるため、既習の前言語期～語彙獲得期の特徴を見直し、その段階にある言語発達障害の特性や評価観点、指導方法について理解し、説明できるようになる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	(1) インリアルによるコミュニケーションアプローチ ①概論			
2	②分析方法			
3	(2) コミュニケーションの発達段階とやりとりの共有(フォーマット)			
4	(3) 発達段階と障害特性に応じた指導 前言語期 ①聞き手効果段階前期 重度重複障害の特徴			
5	②聞き手効果段階後期 評価と指導			
6	前言語期 ①意図的伝達段階 評価と指導			
7	②意図的伝達段階 評価と指導			
8	語彙獲得期 ①評価と指導			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
言語聴覚療法シリーズ 改訂 言語発達障害Ⅰ	大貝茂 編著	建帛社		
標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版	玉井ふみ 編	医学書院		
ことばの障害の評価と指導	大石敬子	大修館書店		
言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版	石田宏代 編	医歯薬出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
言語発達とその支援	岩立志津夫・小掠たみ子編	ミネルヴァ 書房		
コミュニケーションの発達の理論と支援	藤野博編	金子書房		
自由記載				
備考				